

今後の施策の方向性

現地調査、ごみ排出量の実績、アンケート調査から、関市におけるごみ処理の課題を解析しました。

(1) 現地調査・資料調査

燃やせないごみと事業系ごみに不適正排出が見られます。

課題	施策の方向性
燃やせるごみの収集日に事業所が多い地域の現地調査を行ったが、事業系ごみ袋は2袋しか確認できなかった。シュレッダーごみが大量に混じっているなど、明らかに事業所から排出されたごみが家庭系ごみ袋で出されていた。	事業所に対する指導・啓発
燃やせるごみの中に紙袋や紙箱などの紙ごみが多い	集団回収で雑がみの品目追加を検討
燃やせるごみの中にペットボトルの混入多い	啓発と資源の出しやすい環境整備
燃やせるごみ、燃やせないごみともに、袋に入り切らず、大きく飛び出したごみが目立つ。	ルール違反のごみに対する注意喚起の徹底
燃やせないごみに、蛍光灯、スプレー缶、ビン類、カン類の不適正排出が目立つ。	ルール違反のごみに対する注意喚起の徹底 啓発と資源を出しやすい環境整備

(2) ごみ排出量・ごみ処理

ごみ排出量は資源が減少しているのに対して、1人あたりの排出量である原単位が増加しています。

課題	施策の方向性
生活系の資源は減少しているものの、処理・処分を必要とするごみの原単位は増加傾向である。	資源を分別しやすい環境整備
家庭系ごみ有料化による減少効果は1年しか持たなかった。	広報・啓発
資源化率の大幅な低下	指標として資源化率の有効性を検討

(3) アンケート調査

高齢者のみの世帯が増加することが、アンケート調査結果からも読み取れています。

資源の収集回数が少ないことから、分別が行われていなかったり、市の収集以外のところへ排出されていたりする実態が把握できました。

また、全国調査と比較して、ごみに対する意識は高いものの、実際の行動に移している人は少ない結果となりました。行政の決めたルールは守るものの、自発的な行動は少ないと考えられます。

課題	施策の方向性
60代の半数以上は世帯人数が2人以下であり、80代の3割が一人暮らしである。今後はさらに高齢者世帯が増加すると予想される。	ごみステーションまでごみを運べない高齢者に対する支援策の検討
1割以上の人ビン類、カン類、ペットボトルの収集回数に不満を感じている。	資源を分別しやすい環境整備
約3割の人がペットボトルをスーパーや薬局等の店頭回収ボックスに出している。	資源を分別しやすい環境整備
ペットボトルを資源収集に出している人は約5割。	資源を分別しやすい環境整備
白色トレイを資源収集に出している人は約4割、2割以上が燃やせるごみに捨てている。	資源を分別しやすい環境整備
燃やせないごみを毎月出す人は1割にとどまり、約3割の人が年2回以下である。	分別品目の見直し、粗大ごみとの統合
乾電池、発泡スチロールの捨て方で困ったことがある人が約2割	資源を分別しやすい環境整備
全国の調査結果と比較すると、ごみ問題の意識が高いため、ルールは守られているものの、ごみ減量につながる具体的な行動をしている人の割合が少ない。	具体的な行動の提案・啓発
住民満足度は高いものの、情報公開や情報提供の認知度が低い。	さんあ〜るの認知度上昇
旧郡部には民間の古紙回収ボックスが近くにない	資源を分別しやすい環境整備